

「おはなしたまてばこ」をつかって、むかしばなしをしようかいしよう

中心学習材 「むかしばなしが いっぱい」(光村図書1年下)

補助学習材 「うらしまたろう」(金の星社), 「プレーメンの音楽隊」(小学館)他

〈育てたい主となる能力〉

- ◎楽しんで知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。(読力)
- ◎昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。(伝ア(ア))

〈単元を貫く言語活動〉

- ◎昔話を紹介する。

## 1 子どもと単元について

子どもたちは、これまでに「読むこと」の学習として、「おむすびころりん」「おおきなかぶ」ではリズムや繰り返しを楽しみながら音読する活動を、「くじらぐも」では場面の様子について想像したことを音読に表す活動を行ってきた。これらを通して子どもたちは、場面の様子について想像を広げながら読む力を高めてきている。また「ほんはともだち」では、好きな本を紹介し合う活動を通して、本の気に入った部分を発表したり友達の紹介を聞いて次に読む本を考えたりすることができた。日常においては、読書が好きな子が多く、学級文庫やブックトラックの本に手を伸ばしたり図書室に足を運んだりしながら読書に親しんでいる。

中心学習材「むかしばなしがいっぱい」は、日本と外国の昔話を紹介する挿し絵、読書計画や読書記録の例、昔話の楽しみ方の三つのまとまりで構成されている。挿し絵により読者を昔話の世界に誘い、たくさんのお話を想起させ、読みたい話を探していくことが期待できる内容となっている。また、読書計画を立てたり読書活動を振り返ったりする力を身に付けるのに適した学習材であると考えられる。

指導に当たっては、次の三つを大切にしたい。一つ目は、子どもたちの思いを大切にしながら読書に親しませることである。そのために、「おはなしたまてばこ」を使って自分の好きな昔話を紹介するという言語活動を取り入れる。場面の絵を描いた小箱に登場人物の指人形を入れた「おはなしたまてばこ」を使って自分の好きな昔話を紹介し合うことで、一人一人が本や自分の読みへの思いを深めるとともに、友達と本を読みたいという気持ちを共有しながら読書の輪を広げられるものとする。二つ目は、主体的な読書習慣を身に付けさせることである。そのために、読書カードを活用して読書計画を立てたり読書記録を付けたりすることで、自らの読書活動を振り返ったり、これからの読書生活に生かしていこうとしたりする態度を養えるようにする。本単元で扱う昔話の本は、単元終了後もしばらく教室に置き発展読書につなげていく。また、地域や家庭の協力を得ながら読書習慣の形成を図る。単元の導入では、図書ボランティア「ぐーぶねこの手」に読み聞かせをしてもらい、読書の楽しさを味わえるようにする。単元の学習終了後には、家庭で昔話の紹介を行い、家庭読書への橋渡しを図る。三つ目は、無理なく楽しみながら伝統的な言語文化に親しめるようにすることである。そのために、並行読書する昔話は、簡潔で分かりやすい文体で書かれ、魅力的な挿し絵が描かれたものを中心に選ぶ。また、同じ昔話でも種類の違うものをできるだけ用意し、場面展開、語り口調や言い回し、挿し絵の違いなどに気付きながら昔話を楽しめるようにする。これらを通して、昔話の世界を楽しみながら、進んで読書する態度を育てていきたい。

## 2 単元の指導目標

- 昔話を紹介するために、本を選びながら、楽しんで読書しようとしている。【関心・意欲・態度】
- ◎読みたいと思った本を読んだり、紹介したい本を選んで読んだりすることができる。【読むこと カ】
- 昔話の内容と自分の思ったことを結び付けて発表することができる。【読むこと オ】
- ◎昔話の読み聞かせを聞いたり、好きな昔話を紹介したりすることができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】

## 3 単元の評価規準

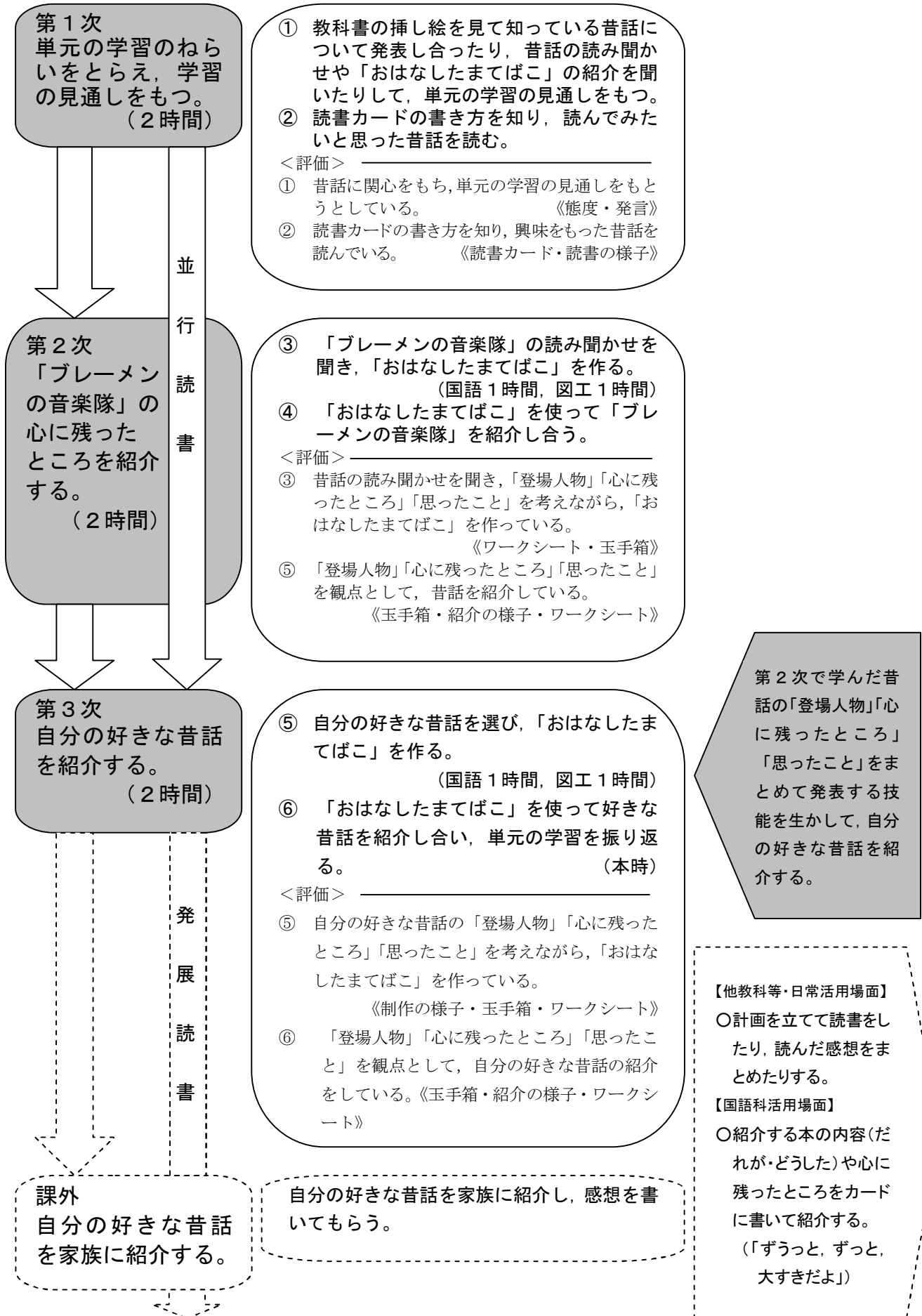
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○昔話を紹介するために、本を選びながら、楽しんで読書しようとしている。	◎これから読みたい本を考えたり紹介したい本を選んだりしながら、読書している。 ○昔話の内容と自分の思ったことを結び付けて発表している。	○昔話の読み聞かせを聞いたり、好きな昔話を紹介し合ったりしている。

4 学習指導計画（全6時間）

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】



## 5 本時の指導

### (1) ねらい

自分の好きな昔話について、文章の内容と自分が思ったことを結び付けて紹介することができる。

### (2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

第2次の学習では、「ブレーメンの音楽隊」について、「登場人物」「心に残ったところ」「思ったこと」を観点として、文章の内容と自分が思ったことを結び付けて紹介する力を身に付けた。本時では、その知識・技能を生かし、自分の好きな昔話について、文章の内容と自分が思ったことを結び付けて友達に紹介する。

### (3) 展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
1 本時の学習課題を確認する。  おきにいりの むかしばなしを しょうかい しよう。		○学習計画に沿って単元における本時の位置付けを確かめながら、学習課題の確認を行う。 ○本時の学習の流れも確認し、見通しをもって活動できるようにする。
2 学習課題を解決する。 (1) 紹介の仕方を確かめる。  (2) 好きな昔話を紹介し合う。	○紹介の観点 ・登場人物 ・心に残ったところ ・思ったこと 〔できごと ・登場人物の説明 ・大切な物の説明〕  ○昔話の紹介に対する感想語彙 ・おもしろい ・わくわくする ・すてき ・すばらしい ・かわいい ・びっくり ・はじめてしまった ・さいこうだ ・じいんとする ・かんだうする など	○紹介の観点として、「登場人物」「心に残ったところ」「思ったこと」は必ず取り入れること、その他についてはできれば取り入れること、発表の内容は繰り返すたびに変わっていいことを確認する。  ○選んだ本が異なる3～4人のグループで紹介を行い、紹介を聞きながら読書への興味を広げられるようにする。 ○グループでの紹介が終わったらワークスペースに移動し、グループの異なる友達とペアをつくって紹介し合う。繰り返し発表する中で、自分の好きな昔話や自分の読みに対する思いを深め、お話の世界を楽しめるようにする。 ○発表を聞いた後には感想を伝えることとし、昔話の魅力を共有しながら次の読書への意欲を高められるようにする。また、感想語彙を提示し、自分の思いや考えを明確に表現できるようにする。  〈評価〉自分の好きな昔話の「登場人物」「心に残ったところ」「思ったこと」を紹介している。【紹介の様子・ワークシート】
3 学習を振り返る。 (1) 自己評価する。 (2) 発表し合う。		○本時の学習については、紹介できた観点や新たに読みたいと思った本の題名に印を付けて自己評価させてから、全体で発表し合い価値付けを図る。 ○単元の学習については、学習計画に沿って、身に付けた力について全体で価値付けを図りながら振り返る。
4 今後の活動を確認する。		○昔話を家庭でも紹介することや引き続き発展読書に取り組んでいくことを確かめ、意欲や見通しをもたせる。